

# PASCH プログラム

## 国際ドイツ語キャンプ（アジア地区）

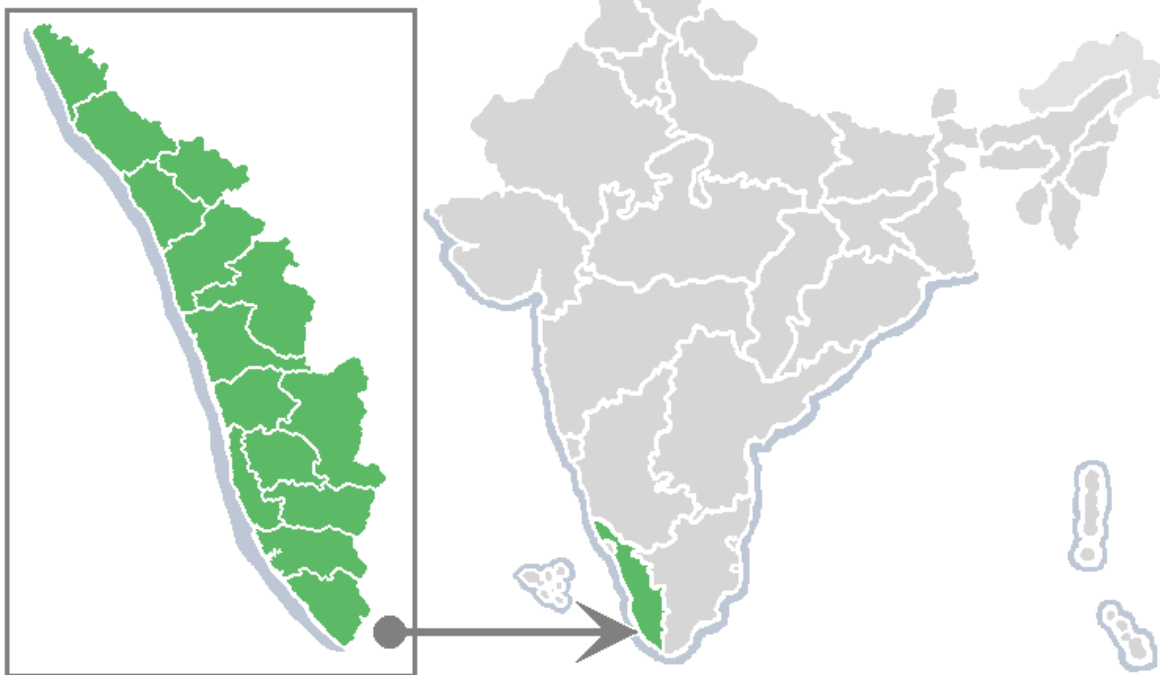
### 帰国報告書

平成22年6月20日～26日

インド ケララ州

参加学生10名

# കേരളം



## インドの体験

機械工学科 07125 戸田麻衣

昨年の6月20日から6月26日に、インドのケララ州でのドイツ語国際キャンプに参加しました。10人の日本人が一緒に行き、総勢約60人の人がこのキャンプに参加しました。私はこのキャンプで多くの経験をし、たくさんの人と出会いました。

初めはこのキャンプに参加することに対し、不安を持っていました。なぜなら、私は外国へ行くのは初めてでしたし、また、外国の人と話すことも心配だったからです。

しかし、このキャンプにより私は、たとえ違う国どうしてもお互いに分かり合うことができる、ということを実感しました。

インドでは、皆で山にハイキングに行きました。そこで、茶畑やカルダモンというハーブを見ました。また、私たちは他にも、ケララ州のたくさんの場所を訪れました。

もちろん、私たちはこのキャンプでドイツ語の勉強もしました。私たちは一緒に童話を作り、発表しました。また、一つのテーマについて意見を交換しあい、そしてそれを発表しました。私たちのテーマは、「学校」についてでした。インドの子とつたない外国語でコミュニケーションをとり、協力して発表するものを作りました。とても大変だったと同時に、とても貴重で楽しい体験でした。

私がこのキャンプを通し、一番心に残っているのは、文化交流の夕べです。

文化交流の夕べでは、私たちは互いに自分たちの国のことをドイツ語で紹介しました。私たち日本人は日本の四季について話し、また、日本の文化である「マンガ」について紹介しました。インドの生徒たちは、インドの歌や踊りを見せてくれました。さらに、日本の浴衣とインドのサリーを交換しました。私はサリーを着ることができ、とても嬉しかったです。

文化交流の夕べを通し、私たちは互いによく知りあうことができ、そして友情を結びました。このことは私にとって本当に忘れられない体験でした。

知り合ったインドの生徒たち、そしてその生徒たちと過ごした素晴らしい時間は私のとても素敵な思い出です。これらの思い出は私にとってとても価値のあるものでした。

インドでのこれらの体験を通して、私は自分だけの狭い視野だけでなく、世界の国際的な視野も考えることができるようになりました。

私はそのことから、よりよく外国の人と意志が通じ合うことができること、そして今後たくさんの外国語を学びたいと思いました。

そして、いつの日かドイツに行くことができれば、と思います。

## インド ドイツ語キャンプ 報告書

電子制御工学科 07323 鈴木直人

- ・日程 ... 2010/6/20 ~ 2010/6/25
- ・場所 ... インド コチ
- ・参加人数(日本) ... 10人
- ・実施内容 ... ・ドイツ語の授業 (ポスター作り、ドイツ語での物語作りなど)
  - ・ハイキング
  - ・Kulturabend (互いの国の紹介) など...

ドイツ語の授業は、ほとんどがグループワークだった。ポスター作りでは、グループごとにテーマが与えられ、自分たちのグループは「環境問題」だった。

物語作りでは、日本とインドの両方の昔話の登場人物を基にして話をドイツ語で作るというものだった。Kulturabend では、多くのインドの学生たちと交流することができた。現地の学生たちと会話するときにはドイツ語ではなくほとんどが英語であり、一緒に外国語の授業を受けたり外で遊んだり、6日間という短い期間で日本ではできないような貴重な体験をできたと思う。インドの学生とは、今後も Eメールや Facebook で交流を続けていきたいと思う。



## インドの思い出

情報工学 07402 天野恵理子

インドでの一番の思い出は、何より自分と年の近い外国の人達と、交流が出来たことです。インドや外国からきた人達は皆、英語がほとんど話せない私達に対しても、ジェスチャーを沢山使って、積極的に会話しようと話しかけてくれました。そういう、人と自ら積極的に関わろうとする姿勢が、自分にはあまり無いものだったので、本当に尊敬しました。私も彼らのようになれたらいいなと思いました。それと同時に、英語の大切さを改めて強く感じました。グループワークやドイツ語の勉強の時以外は、皆英語を使って会話していました。当たり前のように英語を話していて、中には3年間で英語を勉強して、現在はもうペラペラという自分よりずっと小さい男の子がいたりして、英語の勉強を中学の時から始めていた自分は、今まで何をやっていたんだろうと思いました。外国の人は、意思表示がはっきりしていて、それから笑顔が本当に気持ちよくて、ドイツ語や英語以外にも、大切なことを沢山教えてもらった気がします。インドでの思い出は、驚いたことや食生活の違いで、少し辛かった事もありましたが、それも全部貴重な経験となりました。あのインドでの経験を忘れることなく、これからの人生に活かして行けたらいいなと思います。ドイツ語交流を目的として、今回インドに行かせてもらえた事に、本当に感謝しています。

## アジアドイツキャンプ

情報工学科 07415 笹子義弘

今回私は、2010年6月20日から26日までアジアドイツキャンプに参加しました。私は3年生の頃からドイツ語を習い、いつか実際に海外の人とドイツ語を使って話したいと思っていました。そして今回、今まで習ってきたドイツ語を海外で活かせるチャンスがあることを知りまして、やってやるぞという気持ちでこのアジアキャンプに参加しました。

私にとってこのアジアキャンプは、初めての海外でした。しっかりとコミュニケーションが取れるかという不安がありました。たくさんの人たちとふれあえることを楽しみにもしていました。20日に、日本からインドへと飛び立ちました。途中シンガポール国際空港を経由して行きました。シンガポール国際空港は、とてもきれいな場所でした。店の人とは、全て英語でのやり取りで、海外に来たなと実感しました。

そして、シンガポール国際空港から6時間弱の飛行機でインドにつきました。外はとても蒸し暑いところでした。インドに着いて最初の1日目は空港の近くのホテルで泊まり次の日にバスで目的地に行きました。目的地に着くまでは、周りの景色は日本とはとても違い、独特な感じがしました。普通に牛がたくさん道端にいたのは驚きました。目的地に着いたときに、私達は歓迎をしてもらいました。初めてのことばかりで異文化の違いを感じました。目的地には、私達と同じくインドのPASHのメンバーがいました。そこでは、小学生ぐらいの子供から高校生ぐらいの人達がたくさんいました。そして、小学生ぐらいの子供たちは、普通にドイツ語をつかって話していました。すごいなと思ったのが、インドのPASHのメンバーの私の第一印象でした。

そして、着いた次の日から、その時ちょうどワールドカップがテレビでやっていたのもあり、インドのメンバーと一緒にサッカーをしたり、一緒にサッカーの話をしたりして、コミュニケーションをとりました。コミュニケーションには、英語とドイツ語を使って行きました。また、インドのメンバーとドイツ語の授業がありました。ドイツ語を使ったレクリエーション的な感じで、とても楽しく行えました。インドのメンバーは、ドイツ語がとてもよく出来たので、自分も負けぬように頑張りました。授業の後、現地を観光しました。とても山奥まで行き、広大なお茶畑の景色や自然でいっぱいの光景はとてもすばらしかったです。ジャングルを車で行ったりして日本では絶対に味わえない体験をしました。

帰る日の前日、24日の夜には、インドのメンバーとお別れ会をしました。各自でドイツ語を使って様々なテーマで発表をしました。私達は日本の文化・季節・マンガについて発表しました。とても、和やかな雰囲気でしたが少し緊張しましたが無事に発表ができました。インドのメンバーも喜んでくれてとても嬉しかったです。そして最終日にインドの街並みを観光しながら、日本へ帰りました。

私は、今回のアジアキャンプでたくさんの経験が出来たと思います。初めての海外の人とコミュニケーションは楽しかったのですが、まだまだ勉強不足だなと感じさせられました。ドイツ語を使ってのコミュニケーションは、新鮮な感じがしました。また、習ってきた言葉で話すのはとても面白くも感じました。今回の経験で人としても成長できたと思います。またチャンスがあったら参加したいと思います。

## インド報告書

情報工学科 07417 柴崎 弘佳

私にとってインドで過ごした日々は、人生で最も刺激的な約1週間でした。

日本とは食べものも、自然も、文化も異なることばかりでした。インドの食べものは、全ての料理がスパイシーで、たまにすごく辛いものがあるので注意しなくてはなりませんでした。初めは、あまりたくさん量が食べられなかったのですが、だんだんインドの味にも慣れてきて、最終的にはおいしく食べられるようになってきていました。自然もとても雄大で、森の中に黒い尻尾のサルや、鹿を見ることができました。また、部屋の中では、セミがたくさん入ってきたのでセミの音を聞きながら寝たり、サソリを発見したりしました。インドの自然はまるで動物園のようでした。

インドでの生活は、驚きや発見の連続でしたが、多くのことを学ぶことができ、またとても貴重な体験をすることができました。インドの学生との交流もとても今後の語学の勉強への刺激となり、そして日常の物事の取り組み方を考えるきっかけとなりました。今回得た経験を、今後の生活に役立てていきたいと思います。

## インドキャンプ報告書

情報工学科 07421 鈴木菜那子

初日は東京からシンガポールまで行きそこからインドに向かいました。

シンガポールの空港はとても綺麗で空港内に池がありその中で鯉が優雅に泳いでいるのが印象的でした。夜の 11 時過ぎにインドに到着しました。この日はほとんど 1 日移動で疲れたので空港から少しはなれたホテルで早く就寝しました。

2 日目は現地のインド人の学生と合流して 7 時間バスに揺られキャンプ場に行きました。移動中のバスでは出題者のジェスチャーを見てなんのハリウッド映画かを当てるというレクレーションなどが行われ、そこでジェスチャーの方法が日本とは異なっていて文化の違いを感じました。現地の学生はだいたい英語で会話をしていました。私は全く会話ができなくて自分の力不足を実感しました。ですが、その日のうちにインド人の数人の生徒と仲良くなることができ嬉しかったです。インド人は私より年下なのに顔は小さく目も二重ですごく美人な生徒が多かったのに驚きました。キャンプ場は昨年建設されたということもあり綺麗でしたが、自然の中でしたので虫がたくさんいました。私が泊まる部屋には蝉は出入りし、サソリもいてとてもびっくりしました。

3 日目から授業は始まりました。現地の学生はドイツ語を 5 年間勉強していて、私のドイツ語とは比べ物にならないくらい上手にドイツ語で会話していました。まだ若いのにそこまで言語を学んでいることに驚きとインドのすごさを感じました。

午後からは茶畑に案内されました。ジープにゆられ、天井に頭ぶついたりしながら向かった茶畑の景色は眺めもよくて綺麗でした。驚いたことはシートベルトがないことです。

その他にも、サイドミラーや窓がないなど、インドの車には驚きました。

4 日目の大雨だったこの日は早朝 4 時 30 分起きでした。バスにのり、山道からジープに乗り換え、ハイキングをしました。しかし実際はハイキングではなく、野生の象やトラなどがいる場所を歩いていて驚愕しました。そして、歩いている最中もっとも怖かったのがヒルでした。日本で見るヒルとは違い細長くみみずの様な姿でした。ヒルの多さに恐怖を感じました。

5 日目は夜に母国の文化の紹介がありました。日本は春夏秋冬をベースに年間のイベントを紹介したり、今人気のアニメの紹介をしました。インド人に日本の文化のことを知ってもらえてよかったです。文化の紹介中の日本人の姿は男性は甚平、女性は浴衣でした。インド人に浴衣を着せてあげるととても気に入ってくれました。インドの学生は歌やダンスを披露してくれました。どれもすごく楽しかったです。

6 日と 7 日わ移動でした。私が一番困ったことは食事でした。毎食カレーが続いたので、日本食を恋しく感じました。

今回のインドキャンプでは、外国人との交流や他国の文化に触れたりなどとても貴重な体験ができました。楽しいキャンプで本当に思い出になりました。

## ドイツ語キャンプ インドへ行って

環境都市工学科 07526 鶴岡夏海

### 1. 言葉

私は英語もドイツ語もしゃべれない。ラッキーでインドへ行ってしまった。インドでのドイツ語学習では、インドの子たちの頭の良さを見せつけられた。というよりも、私の語学力の無さを痛感してしまった。

日常生活での会話や、ドイツ語学習時にドイツ語の意味が分からないとき、インドの子たちは英語で話しかけたり教えてくれたりするのだが、さっぱりわからない。先生や友達にほとんど通訳してもらっていた。多くの方は「しゃべれなくても身振り手振りでどうにかなる」と言うが、それは嘘だと思った。それでどうにかなる人は最低限度の学力を備えているのだと思う。

今回の体験を通して、語学学習を本気で頑張ろうと思った。今は、中学三年生の英語の勉強をしている。

### 2. 食

食事は本当に口に合わないものばかりだった。辛いことを覚悟して食べたカレーは、辛すぎて味がよくわからなかった。バイキング形式のお店で食べた時も、お店の人は「ノースパイシー！ノースパイシー！」って言ってきたくせに、激辛でやっぱり味がよくわからなかった。

インドではバイキング形式での食事が多かったのだが、並んでいる料理やお皿に、何匹ものハエがたかっけていて、慣れるまでは苦痛で仕方なかった。2、3日もするとそれにも慣れ、自分の口に合いそうな料理も、見た目やにおいで判断できた。最終的に分かったのは、自分の口に合うのは食パンだけだった。朝食に出てくる5、6枚食べ、一日一日を生き延びていたようにも思える。

飲み物は、気を使うことばかりだった。まず、水は水道水を飲まず、ミネラルウォーターを飲むのが当たり前。氷が入った飲み物は飲まない。アイスにも細かい氷が入っていたので食べない。移動先で歓迎とともに差し出された、ありがたいフルーツジュースも、私のか弱いおなかに何が起こるかわからないので、絶対飲まない。

もし、またインドへ行くのなら、もっと多くの飲み物やインスタント食品、おやつなどを日本から持参しようと思う。

とにかく私は、インドの衛生面を信用していないので、水道で手を洗った後、何かを触った後、何かを食べる前、欠かさず手のアルコール消毒をしていた。潔癖症だと思われたかもしれないが、これくらいやらないと、私のおなかは耐えられなかっただろう。

### 3. 文化

インドと日本では大分文化の違い、感覚の違いを感じた。

例えば、次の日の朝の集合時刻、日本人は早めに集合するのだが、インド人はいつまで経っても集合しない。日本が細かすぎるのか、インドがアバウトすぎるのか…。

他にも、「ハイキング」と言われて行ってみると、テレビでしか見たことがないような大自然で、ヒル



に襲われたり、象に会えるんじゃないかって雰囲気になったり。命がけのハイキングだった。

また、「ホテルの周辺を案内するよ」と言われてついて行けば、足場の悪いジャングルへと入り込んでいくし、「どうなってしまおうだろう」と本気で不安になった。

ここに来たことで、少しは強くなれたのではないか?と思った。

#### 4. 友達

しゃべれないながらも、友達はなんとかできた。自分の好きな音楽を携帯とかで聞かせあったり、共通の趣味であるバスケットボールの話をしたり、日本語を教えたり、ヒンドゥー語を教わってみたり、歌を歌ったり。

正直、会話では何を言っているのかさっぱりわからなかったけど、友達になれたのはとてもうれしかった。今でも時々、辞書を片手にメールをして、今読んでいる本やおすすめの本を教えあって、連絡を取っている。今年の春休み中にやるはずだったキャンプが中止になってしまったのはすごく残念だった。また参加してみたいと思った。

## ドイツ語キャンプ in Kerala

環境都市工学科 07527 中村知美

去年の6月、私たちはインドのケララで1週間を過ごしました。ドイツ語研修が目的ということでしたが、自分にとっては文化や習慣に驚くばかりでした。

初日、成田から飛行機に乗ってシンガポールを経由してからケララに入りました。自分は海外が初めてだったので日本から出る事に少しドキドキしていました。ずいぶん長い間飛行機に乗った後、ケララに着いたら少し暑かったし、独特の匂いがした記憶があります。1日移動だけで終わったけど、すごく疲れたのですぐに寝ました。時差もあったので1日がすごく長かったです。

2日目の午前中は少し観光みたいな事をしたけど、暑くてあんまり楽しくありませんでした。でも、牛の野放しや日本ではありえない交通ルール、ゴミの山といったインドの現実を目の当たりにし、少しショックを受けました。午後からインド人と合流して空港近くからキャンプをするリゾート地まで移動しました。先の見えない山道でクラクションを鳴らしまくって、スピードを落とさずに走るバスに乗るのは少し怖かったです。でも、バスの中では何人かのインド人と話しました。お互い違う言葉を母国語とし、自分たちが英語もドイツ語も自由に話せないから、コミュニケーションをとるのが大変でしたが、ジェスチャーをしながら会話をする事ができたと思います。

インド人と交流してからは、ドイツ語の授業があったりして、ドイツ語でインドと日本の違いを説明したり、物語を作って発表したりするのは、なかなか大変だったけどとても面白かったです。3日目を過ぎた辺りから、日本食が恋しくなり、香辛料の匂いのキツイインド料理は食べられませんでした。No spicityと言われる料理は辛くて、インド人の味覚を疑いました。でも、ミルクと砂糖がたっぷり入ったコーヒーや紅茶は美味しかったです。

あと自分の中ではすごく記憶に残っているのが、ハイキングです。ハイキングと言っても、サイの糞だとか、ゾウの鳴き声、またヒルがたくさんあるサファリパークみたいなところを歩くので少し恐ろしかったです。また、そこに行くまでに乗ったジープ。定員以上で乗るし、揺れもすごくてすごく疲れました。インドの交通ルールは日本では考えられないくらい劣悪なものでした。

なんだかんだで、1週間もあっという間に終わりました。インド人と分かれるのは少し寂しかったけど、日本に帰れると思うと少し嬉しくもなりました。自分の世界を広げる事ができ、とても充実していました。今も facebook などを通してインド人と交流していて、凄く良い経験ができたと思っています。

## ドイツ語キャンプ in インド

環境都市工学科 07534 松林未理

六月二十日から二十六日までの一週間ドイツ語キャンプのためインドに滞在した。一日目、日本→シンガポール→インドといった長いフライトを経て夜中にインドに到着した。着いた直後、湿気が多かったことは今でもよく覚えている。日本とは食文化や交通ルールも全く異なり、刺激的な一週間であった。二日目にインド人の学生と合流し、山奥のペンションに移動した。インド人の学生とは今でも facebook で連絡をとっている。ドイツ語と英語でコミュニケーションをとるため辞書とジェスチャーを使い交流した。言葉がうまく伝わらないことも多かったが、インドの友人は会話をするため積極的に話かけてくれた。また、英語の大切さをとても感じた。三日目の午前、ドイツ語のゲームをした。班に分かれて自己紹介やプレゼンを行った。私の班は<旅行>についてドイツ語で発表した。インドの学生を先頭にプレゼン内容を考えた。午後は茶畑に行った。ジープに乗り崖を駆け巡り、今までの人生の中で一番スリリングな体験をした気がする。夜はインドの伝統的なダンスを見た。朝昼晩毎回スパイスの効いた食事だったため日本食がとても恋しく感じた。四日目は朝四時五十分にモーニングコールで起こされ、五時にペンションを出発した。またジープに揺られ山奥に到着した。足にヒル除けの布を巻き、ハイキングをした。しかしこのハイキングは穏やかなものではなかった。足を滑らしたら転落してしまうような崖路を歩き、野生のゾウの声を聞き、大量のヒルが足にくっつくなどハプニング満載であった。友人は長時間ヒルに吸われたまま気付かずペンションにもヒルを持って帰ってしまった。今ではとてもよい思い出である。五日目の午前中はドイツ語のゲームをした。班に分かれてキーワードを使ってストーリーを作り発表する。キーワードは<サッカー>と<かぐや姫>と<ラマ>と<ドイツの女のひと>であった。バラバラなキーワードがストーリーを余計面白くさせた。午後はペンション内を観光した。様々な花やスパイスの元を見て回った。ペンションでの食事は庭でとれたスパイスを使っているため実の匂いは嗅いだことのある匂いばかりであった。ペンション内には細い橋や橋のない川もあり冒険をしているようだった。夜はインド人と日本人が出し物をした。インド人の踊りや歌はとてもかわいかった。日本人はアニメと日本の季節についてプレゼンをした。明日でお別れだと思うととても寂しかったがたくさん写真を撮り、交流をする事が出来た。その夜梅干しとせんべいを食べて感激したことを覚えている。インドを離れる寂しさと日本が恋しい気持ちが交互した。六日目は朝早くペンションを去った。インド人の学生は眠い目をこすりながら見送りに来てくれた。一週間という短い期間だったがとても寂しかった。そしてバスに乗り最終日のインド観光をした。バスコダガマの昔の墓や博物館を見学し、お土産巡りをした。日本では経験できないほどの押し売りや値切りの繰り返しで面白かった。夜飯を最初に泊まったホテルで食べて空港へ向かった。日本→シンガポールは特になにも感じなかったが、インド→シンガポールはギャップを感じた。シンガポールに着いた直後、久々に感じる空腹に友人とラーメン屋に駆け込んだ。その夜も日本でラーメンを食べたが香辛料の効いていない食べ物を食べるのは一週間ぶりであったため全く気にならなかった。インドでの経験や交流は一生忘れられないアクティビティな思い出だ。

## インドキャンプ感想

機械工学科 08144 坂昭人

僕のインドドイツ語キャンプ参加は、ドイツ語を学び始めて約 2 カ月であったため、ほとんどの語彙も知らない中での参加であった。

しかし、いざ研修が始まると英語を交えながらではあったが、インド各地からの参加者とたくさん会話できた。休み時間などには一緒にサッカーをしたり、野生動物保護区を訪れたときにはみんなでトレッキングに出かけたりもした。

インドでの授業は全体を通して 2 回しかなかったが、どちらも内容の濃い授業だった。授業の内容はそれぞれ「自己紹介とインド・日本の文化の比較」と「ヨーロッパ・インド・日本の昔話などに登場する人物などを用いた物語の創作」だった。さすがに授業の時にはドイツ語しか話すことしかできなかったため、積極的に会話に参加することができなかった。しかし、日本での授業とは全く違う雰囲気、一回の授業時間は長かったがとても楽しかった。

僕のインドドイツ語キャンプで最も印象に残っているのは、キャンプ最終日に行われた **Kulturabend** (文化発表会) である。それぞれの国の民族衣装に着替え、自分たちの国についての紹介、歌や踊りの発表などをした。木更津高専は日本の代表として、日本の気候、アニメ文化などを紹介した。特にアニメの紹介は好評でとてもうけがよかった。メールアドレスもたくさんの人と交換したり、それまで一度も話したことがなかった人とも話すことができた。インドの人たちの出し物は、人数が多いこともあってかとても多彩だった。姉弟で一曲披露したり、みんなで熱唱したり、最後にはインド人 2 人だけで空手のかたを披露してくれた。

別れの時には、友達が見送りに来てくれた。その時にプレゼントを渡してくれた。僕は、前日の文化発表会で交換するためのプレゼントは用意していたものの、その時に渡す他のプレゼントを全く用意していなかったため、渡すことができなかった。次回チャンスがあれば、このようなときに渡すプレゼントを用意しようと思った。

今回の研修を通して感じたことは、次の 3 つが大切であるということである。その 3 つとは、

- ・とにかく相手に話しかけようとする
- ・相手の言おうとしていることを少しでも理解しようとする
- ・語彙を増やすこと

である。

今の僕の課題は、英語においてもドイツ語においても、語彙がとても乏しいことにあると考える。よって、自分に合った語彙の学習方法を模索しながら語彙を増やしていきたい。

また、次回海外に行くチャンスがあれば、今回の研修で得たことを生かし、積極的にコミュニケーションをとっていきたい。